

調査報告

看護学科学生生活調査 － 1 期生と 4 期生の比較分析による検討－

松下聖子・永田美和子・鈴木啓子・金城やす子・徳田菊恵

Nursing department student life research －examination by comparison analysis of one term life and four term life－

Seiko Matsushita, Miwako Nagata, Keiko Suzuki, Yasuko Kinjo, Kikue Tokuda

はじめに

平成 6 年公設民営の大学として名桜大学は開学し、平成19年人間健康学部看護学科が設置された。その後平成22年 4 月には、公立大学法人名桜大学として新たなスタートを切った。私立大学から公立大学へと変化する中で、学生の気質や生活のあり方、学生生活へのニーズに変化が考えられる。

そこで、4 期生を対象に学生生活アンケートを実施した。学生生活アンケートは、学生の生活実態を把握し、本学科の教育に対する満足度や学生生活全般に関する意見を調査するものである。この調査はすでに 1 期生にも実施しており、今回 4 期生の調査を行い、その結果を 1 期生と比較分析することで、学生の生活の実態を把握する。そして、今後の学生生活の向上と充実に向けた、改善・改革に取り組むための資料とする。

1. 研究目的

学生の生活実態を把握し、今後の学生生活の向上と充実に向けた、改善・改革に取り組むための資料とする。

2. 研究方法

- 1) 対 象 者：平成22年度人間健康学部看護学科 1 年次在校生（休学者を除く）86名
- 2) 調査期間：平成23年 3 月
- 3) 調査方法：調査は、看護学科自己点検・評価委員会が他大学及び本学における学生生活調査を参考に作成した調査用紙を用いて無記

名自記式で行った。調査項目は、①学生自身に関すること（性別・出身地・住まい・住居形態・交通手段・通学時間・同居家族）、②経済状況（生活費・奨学金・アルバイト・経済状況への評価、希望する経済的支援）、③生活状況（自分の意識や行動・クラブやサークル活動・普段の過ごし方・生活上の悩み・相談相手・生活への満足）、④健康状態（睡眠・食事・飲酒・喫煙・定期健康診査受診状況）、⑤学習状況（授業以外の学習時間・授業への出席状況・学習環境への満足度）⑥大学の教育・学習支援への評価（教育・学習支援・生活支援・進路支援・相談体制・その他）、⑦将来の進路（希望する進路・進路に関する不安や悩み）、⑧国家試験対策、⑨名桜大学人間健康学部看護学科への入学への評価（入学理由・大学への印象の変化）、⑩大学及び学科の教育理念の認知である。

- 4) 配布と回収：1 年次終了時のガイダンス終了後に調査の趣旨及び目的、調査における個人情報保護及び匿名性の確保、調査用紙の回収をもって調査協力の同意とすることについて説明し配布した。調査用紙の回収は、1 週間回収箱を設置し回収した。
- 5) 分析方法：調査項目ごと単純集計を行い、1 期生と 4 期生の比較分析を行った。

なお、1 期生の調査は、平成19年12月に休学者を除く 90 名を対象に調査用紙を

配布し、その場で回収した。1期生への調査用紙配布枚数は90枚、回収枚数87枚、回収率96.7%、有効回答率93.3%（84枚）であった。

3. 結 果

配布枚数86枚、回収枚数44枚、回収率51.2%、有効回答数48.8%（42枚）であった。

1) 対象者の概要

男女比は1期生4期生とも1：4であった。出身地は、1期生では、南部38%、中部32%、北部21%、離島6%、県外1%であった。4期生では、南部17%、中部26%、北部37%、離島10%、県外10%であった。現在の住居地は1期生、4期生とも9割が北部地域に住居を構えていた。中部地域から1期生10%、4期生2%が通学していた。南部地域からは1期生1%通学していたが4期生の通学生はいなかった。自宅生が、

1期生25%だったが、4期生40%と増えていた。名桜大学関連のアパートの利用者の割合は変わらなかった。徒歩通学は1期生47%であったのが、4期生14%と減少していた。バイク・車通学者は、47%から61%と増加していた。相乗りで通学している学生も1%から14%に増加していた。名桜大学のバスの利用に変化はなかった。通学時間については、15分未満が1期生72%から4期生59%に減少し、15分以上30分未満が1期生10%から4期生31%に増加していた。（表1参照）

2) 経済状況について

(1) 支出

家賃・食費・光熱費・携帯電話代の支出は4期生が多いが、奨学金・交通費・その他は1期生が多かった。1か月の生活費は、1期生8.2万円、4期生7.6万円であった。（図1.参照）

表1. 対象者の概要

単位：％

		19年度	22年度
性別	男性	19.0	16.7
	女性	81.0	83.3
出身地	名護市	9.8	16.7
	本部町・今帰仁村・東村・大宜味村・国頭村	11.0	19.0
	恩納村・宜野座村・金武町	0.0	2.4
	読谷村・嘉手納町・北谷町・うるま市・沖縄市・北中城村	32.9	26.2
	中城市・宜野湾市・浦添市・西原町・那覇市・与那原町・南風原町・南城市・豊見城市	39.0	16.7
	離島	6.1	9.5
	県外	1.2	9.5
現在の居住地	名護市	78.6	73.8
	本部町・今帰仁村・東村・大宜味村・国頭村	8.3	23.8
	恩納村・宜野座村・金武町	1.2	0.0
	読谷村・嘉手納町・北谷町・うるま市・沖縄市・北中城村	10.7	2.4
	中城市・宜野湾市・浦添市・西原町・那覇市・与那原町・南風原町・南城市・豊見城市	1.2	0.0
現在の居住形態	実家	25.0	40.5
	親族・知人宅に間借り	1.2	2.4
	単身（名桜大学関連アパート）	21.4	21.4
	単身（その他のアパート）	47.6	35.7
	その他	4.8	0.0
通学手段	徒歩	47.0	14.3
	名桜大学通学バス	4.8	7.1
	バイク・原付	2.4	0.0
	車（自分で運転）	44.6	61.9
	車（友人の車に相乗り）	1.2	14.3
	家族・親類他に送迎	0.0	2.4
通学時間	0～15分未満	72.3	59.5
	15分以上30分未満	10.8	31.0
	30分以上1時間未満	8.4	4.8
	1時間以上1時間半未満	3.6	4.8
	1時間半以上2時間未満	4.8	0.0

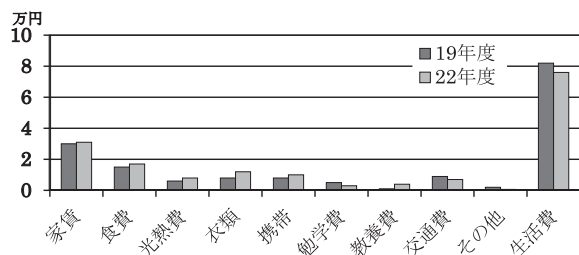


図1. 家賃等の平均

(2) 収入

保護者からの仕送り、奨学金、アルバイトのいずれかで収入を得ていた。仕送りのある学生は、1期生55%、4期生47%であった。仕送りの平均は1期生1.7万円、4期生2.2万円であった。奨学金を受けている学生は、1期生65.4%、4期生76.6%であった。奨学金の平均は、1期生8.1万円、4期生6.8万円であった。アルバイトをしている学生は、1期生

47.6%、4期生21.4%であった。アルバイトによる収入は、1期生では3～6万円が多く、4期生では1～3万円が多かった。アルバイトの目的では、1期生が生活費や娯楽・交通費に対して、4期生では娯楽・交通費や仕事の経験・社会勉強が多かった。1週間あたりのアルバイト時間では、1期生は12～21時間が多く、4期生では、9～18時間が多かった。(表2. 図2. 図3. 参照)

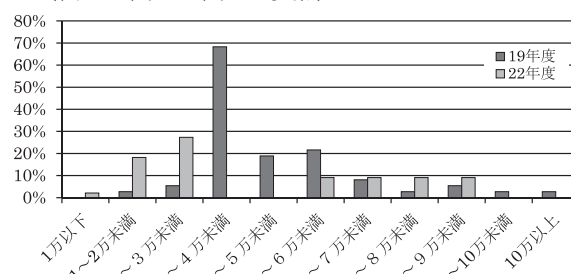


図2. 1か月あたりのアルバイト収入

表2. 経済状況

単位：%

		19年度	22年度
仕送り	仕送りあり	54.5	43.7
	仕送りなし	45.5	56.3
奨学金	奨学金受けている	68.4	78.6
	奨学金受けていない	31.6	21.4
奨学金の種類	日本学生支援機構	80.7	73.8
	名桜大学奨学金	17.5	2.4
	自治体（市町村）奨学金	7.0	2.4
	病院などの施設奨学金	7.0	9.3
	その他	7.0	0.0
バイト	アルバイトをしている	7.0	0.0
	アルバイトをしていない	47.8	21.4
アルバイトの目的	生活費	52.2	78.6
	学費	75.6	9.5
	情報・教養費	9.8	0.0
	娯楽費・交際費	51.2	16.7
	仕事の経験・社会勉強	7.3	14.2
	海外旅行・ブランド品の購入	0.0	0.0
	その他	2.4	1.2
経済的支援のニーズ	名桜大学奨学金の拡充	61.9	52.4
	単価の高いアルバイトの紹介	32.1	35.7
	授業料の減免制度の拡充	79.8	50.0
	利率の低いローンの紹介	27.4	26.2
	病院などの民間奨学金の紹介	19.0	14.3
	一般奨学金の紹介	19.0	9.5
	その他	4.8	0.0

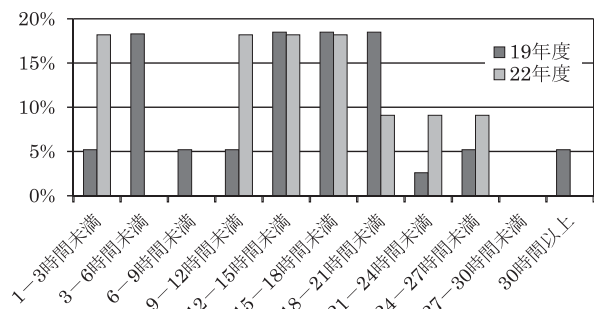


図3. 1週間あたりのアルバイト時間

(3) 経済的余裕および支援ニーズ

経済的余裕について「全くない」・「あまりない」と回答した学生は、1期生47.6%、4期生36.8%であった。経済的余裕がない理由として4期生は、「自分で学費を払っているため」「高校の奨学金の返済やガソリン代などであまり余裕がない」「アルバイトをやっていなくて、親の所得も少ない」「食費や交通費が多くあまり余裕がない」「通信費、交通費でほぼ自由なお金がない」「親の仕送りがないので」などであった。(図4. 参照)

経済的支援のニーズとして、1期生では「授業料の減免制度の拡充」が最も多かったが、4期生では「名桜大学奨学資金の拡充」が最も多かった。(表2. 参照)

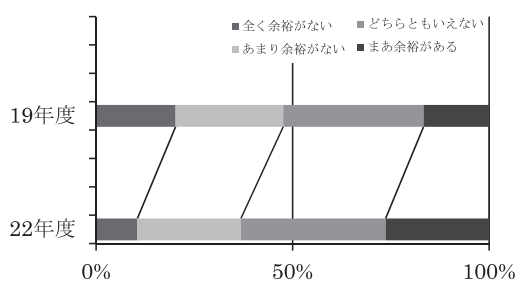


図4. 自身の経済的余裕の評価

3) 生活状況について

(1) 対人交流および他者との関係における自己認識について

友人の数、人付き合い、親や家族との会話、他者との協力については、1期生より4期生のほうが良いと自己認識しているが、相談相手は4期生より1期生のほうが多かった。リーダー役割の経験や人前で話すことも1期生より4期生のほうが多いと認識していた。(図5. 図6. 図7. 図8. 図9. 図10. 図11. 参照)

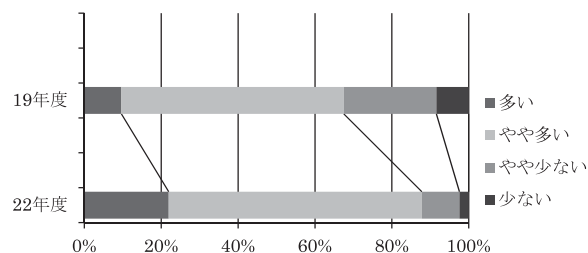


図5. 友人の数

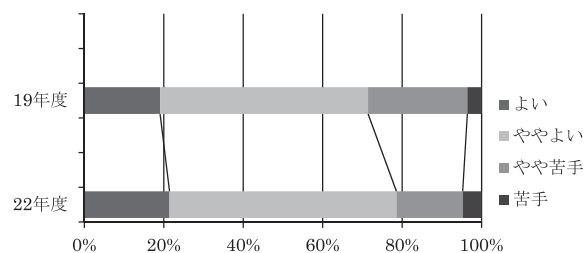


図6. 人づきあいについて

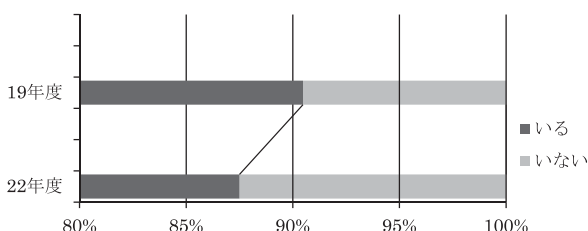


図7. 相談相手

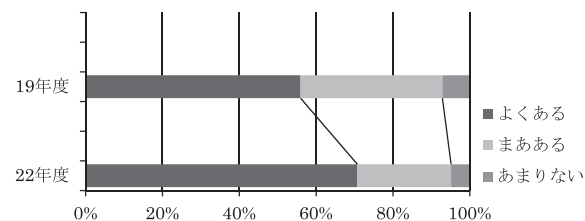


図8. 親や家族との会話について

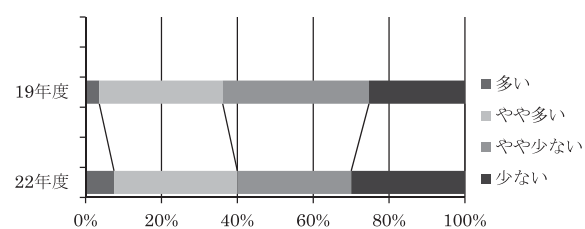


図9. リーダー役割の経験について

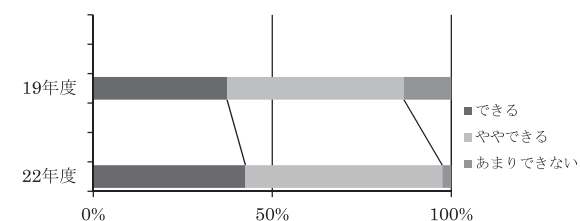


図10. 他者との協力について

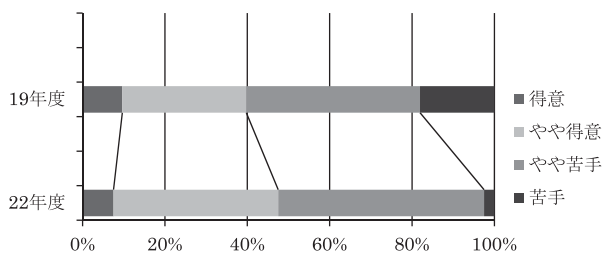


図11. 人前で話すことについて

(2) クラブ・サークル活動について

クラブ・サークルの活動状況は1期生、4期生とも差はなかった。(図12. 参照) 活動しない理由は、1期生、4期生とも「勉強が大変だから」が多かった。(図13. 参照)

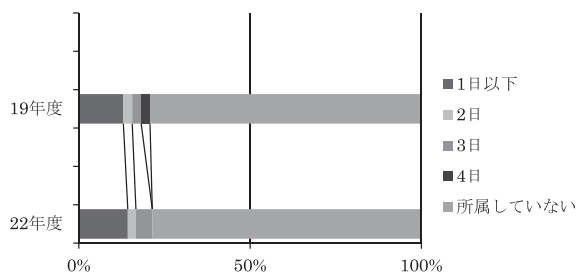


図12. クラブ・サークル活動について

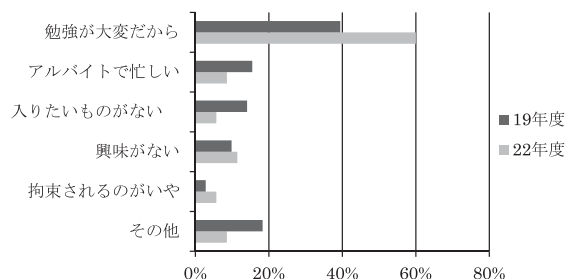


図13. クラブ・サークル活動をしない理由

(3) 学生生活について

授業のない日や休日の過ごし方は、1期生では「アルバイトをする」が46.4%、「身の回りのことをする」が46.4%であった。4期生では、「テレビ・雑誌を見てゆっくり、のんびり過ごす」が57.1%、「寝る」が47.6%であった。(図14. 参照)

生活上の悩みは、「勉強上の悩み」が1期生77.4%、4期生66.7%と一番多かった。「学費の負担、生活の苦しさ」が1期生44%、4期生19%であった。また、「就職・進路など将来の進路のこと」が1期生26.2%、4期生33.3%であった。さらに「自分の性格や生き方」が1期生23.8%、4期生33.3%であった。「悩み事はない」と回答した学生は1期生3.6%、

4期生16.7%であった。(図15. 参照)

相談相手は、「名桜大学の友人」が1期生63.9%、4期生73.8%で一番多かった。「家族」が1期生44.6%、4期生57.1%であった。一方で「相談する相手がいない」と回答した学生は、1期生2.4%、4期生4.8%であった。また「医務室、学生相談室」を利用している学生は1期生0%、4期生2.4%であった。(図16. 参照)

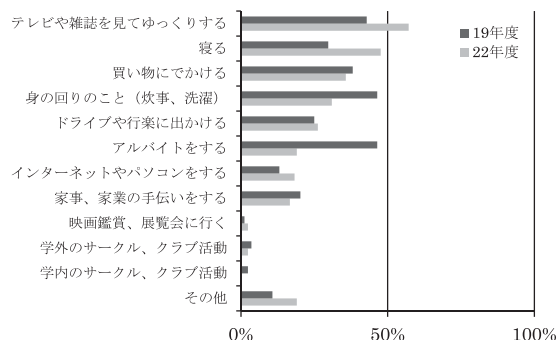


図14. 授業のない日や休日の過ごし方(複数回答)

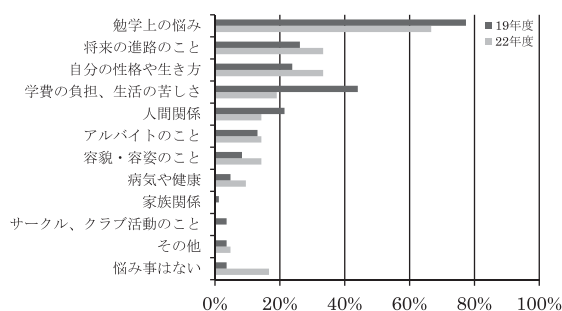


図15. 生活上の悩みごと(複数回答)

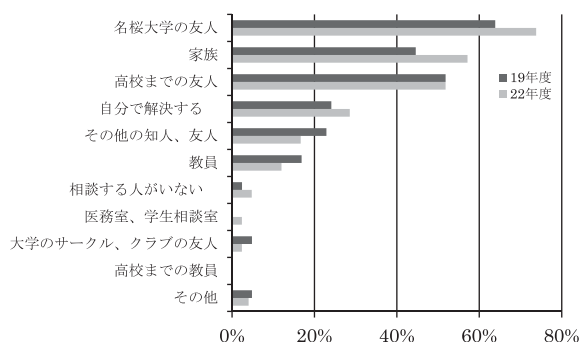


図16. 悩みを相談する相手(複数回答)

学生生活への満足度では、「満足」「やや満足」と回答した学生は1期生37.3%、4期生64.3%であった。(図17. 参照)

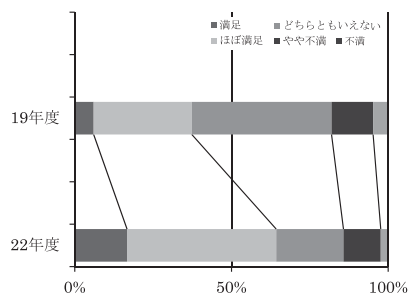


図17. 学生生活への満足度

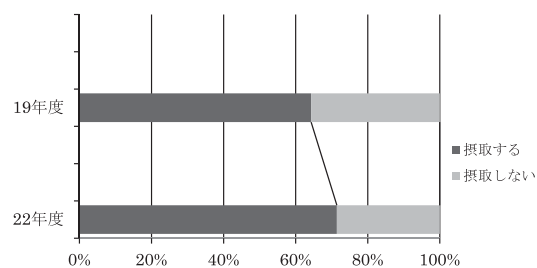


図20. 朝食の摂取状況

4) 健康状況について

(1) 睡眠について

平均睡眠時間は、1期生5.8時間、4期生5.9時間であった。最も短い学生は1期生3時間、4期生5時間、最も長い学生は1期生9時間、4期生7時間であった。(図18. 参照)

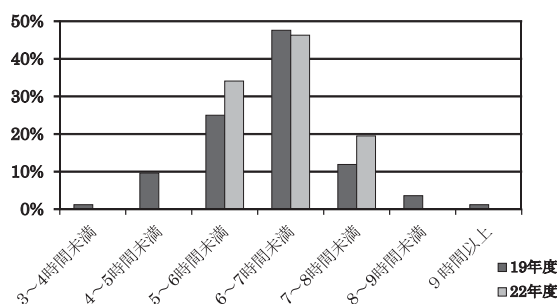


図18. 睡眠時間

(2) 食事について

「ほぼ毎食自分で作る」が、1期生40.5%、4期生19.0%であった。「自分で作る」と外食と半々」は1期生14.3%、4期生35.7%であった。「ほぼ外食」は、1期生19.0%、4期生40.5%であった。(図19. 参照) 朝食の摂取状況は1期生64.3%、4期生71.4%であった。(図20. 参照) 朝食をとらない理由として、「寝ていたい」が1期生36.7%、4期生16.7%で最も多かった。(図21. 参照) 食事で気をつけていることは、「野菜を多く取ること」が1期生74.1%、4期生69%で最も多かった。「好き嫌いなく食べる」は1期生39%、4期生50%であった。「たんぱく質を多く取る」は1期生9.9%、4期生31%であった。(図22. 参照)

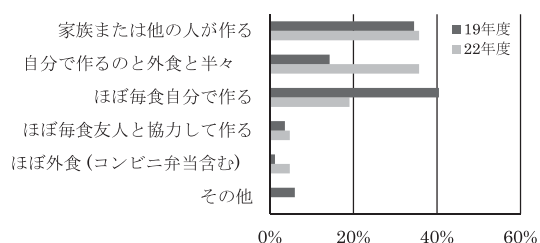


図19. 食事作り

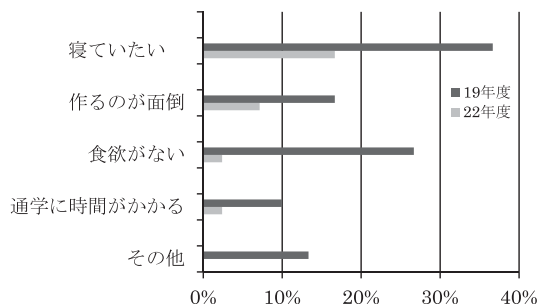


図21. 朝食を摂取しない理由

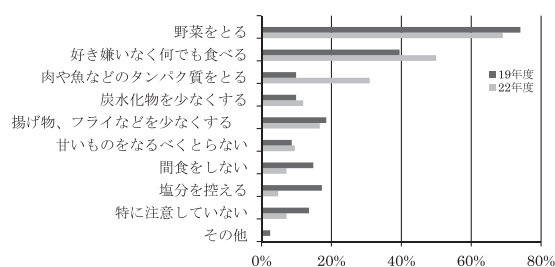


図22. 食事で注意していること (複数回答)

(3) 飲酒について

飲酒しないと回答した学生は、1期生44.4%、4期生56.1%であった。(図23. 参照) アルコール依存症の簡易テスト項目チェックでは、1期生17.4%、4期生11.6%の学生が2項目以上を選択していた。(図24. 表3. 参照)

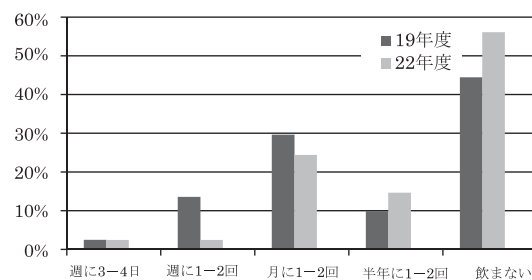


図23. 飲酒頻度

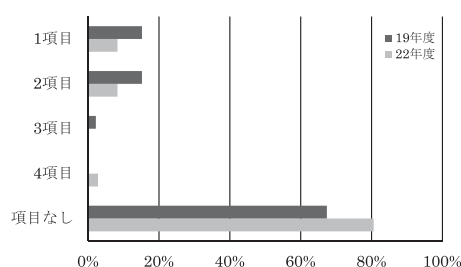


図24. 飲酒状況の自己診断テスト

表3. AGACテスト

下記の項目で2つ以上あてはまる場合に、アルコール依存症の可能性がある。

1. 飲酒量を減らさなければと感じたことがありますか
2. 他人があなたの飲酒を非難するので気になったことはありますか
3. 自分の飲酒について悪いとか申し訳ないと感じたことはありますか
4. 神経を落ち着かせたり、2日酔いを治すために迎え酒をしたことはありますか

(Ewing,J.A:Detecting Alcoholism JAWA252:1905-1907, 1984)

北村俊則：「精神症状測定の理論と実際」より

(4) 喫煙について

喫煙している学生は1期生10.5%であったが、4期生では喫煙している学生はいなかった。(表4. 参照)

(5) 健康診断の受診について

大学における健康診査の受診は、1期生85.2%、4期生95.2%であった。受診しなかった理由は、1期生、4期生とも「健康診断があるのを知らなかった」ためであった。また、1期生では「健康だから受診しなくても大丈夫だ」と判断した学生もいた。(表4. 参照)

表4. 健康状況

単位：%

		19年度	22年度
喫煙	喫煙する	10.5	0.0
	喫煙しない	89.5	100
検診	大学による健康診断を受診した	85.2	95.2
	大学による健康診断を受診しなかった	14.8	4.8
受診しなかった理由	面倒だった	0.0	0.0
	検診があるのを知らなかった	90.9	97.6
	健康だから大丈夫	9.1	2.4
	通院している	0.0	0.0
	授業の時間と重なっていた	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0

5) 学習状況について

(1) 学習時間

平日の通常授業のある日の学習時間は1期生、4期生とも30分以上1時間未満が一番多かった。学習時間が確保できていない学生は、1期生17.3%、4期生2.4%であった。1時間以上1時間30分未満の学習時間を確保している学生は、1期生6.2%、4期生14.3%であった。2時間以上学習する学生は1期生1.2%、4期生は0%だった。(図25. 参照)

試験期間中の学習時間は1期生では2時間以上が最も多く、4期生では1時間30分以上2時間未満が最も多かった。(図26. 参照)

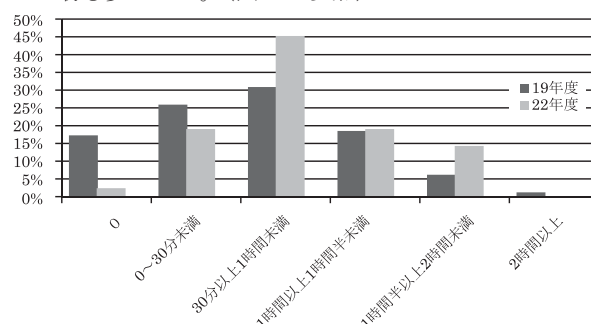


図25. 通常の1日あたりの学習時間

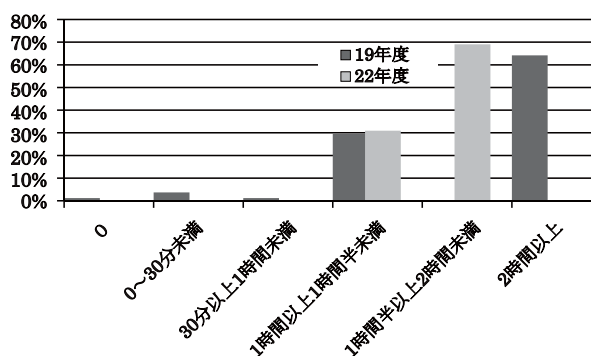


図26. 試験期間中の1日あたりの学習時間

(2) 通学および出席状況

通学日数は、5日間で1期生82.7%、4期生88.1%で、最も多かった。次いで、6日間で1期生12.3%、4期生9.5%であった。(図27. 参照)

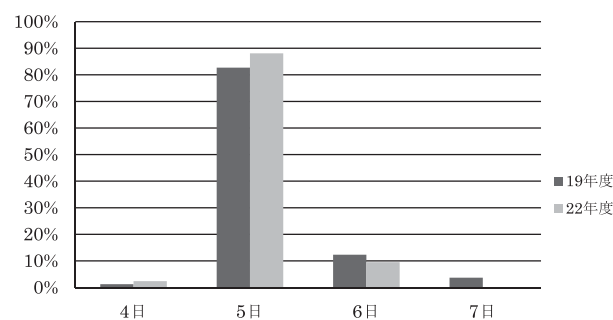


図27. 1週あたりの通学日数

授業への出席率は、95%以上が1期生72.8%、4期生73.8%であった。90～95%は1期生16.0%、4期生19.0%であった。一方で、80%未満の出席率と回答した学生は、1期生3.7%、4期生4.8%であった。(図28. 参照)

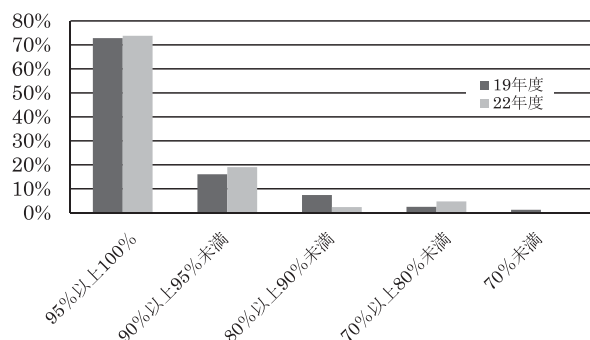


図28. 1週あたりの出席状況

(3) 学習環境と学習時間および学習環境への満足度

ネット機能のあるパソコンの所有者は、1期生43.2%、4期生69.0%と増えていた。ネット機能のないパソコンの所有者は、1期生42.0%、4期生23.8%と減少していた。また、パソコンを所有していない者は、1期生14.8%、4期生7.1%と減少していた。(図29. 参照)

学習時間および学習環境への満足度では、十分満足とまあまあ満足を合わせると、1期生62.9%、4期生73.8%と増えていた。一方、やや不満と全く不満を合わせると、1期生37.1%、4期生26.1%であった。(図30. 表5. 参照)

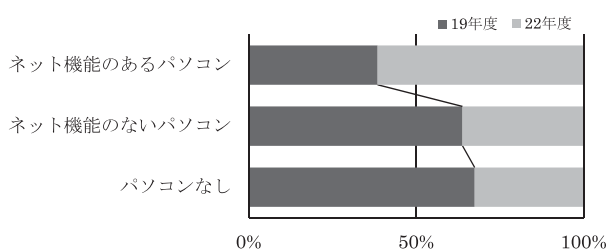


図29. パソコン所有状況

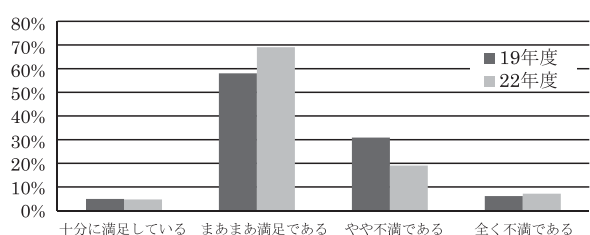


図30. 学習時間および環境への満足度

表5. 学習時間および学習環境へ「やや不満」「全く不満」と回答した4期生の記載内容

- ・時間が作れない
- ・図書館が狭い
- ・家に部屋がないので、集中できない
- ・もっと学習時間を増やさないといけない
- ・もっと自己学習時間を増やしたい
- ・もっと勉強しないといけない
- ・学習時間が足りていない

6) 大学の教育・学習支援について

(1) 教育についての評価

教育についての学生の評価では、思う、やや思うが、「成績評価が適切である」で、1期生76.5%から4期生59.5%に減少した。また、「フレッシュマンセミナー、ふれあい看護実習が充実している」においても1期生65.1%から4期生36.6%に減少した。一方「時間割が適切である」が1期生16%から4期生35.7%に増えた。(図31-1. 図31-2. 表6. 参照)

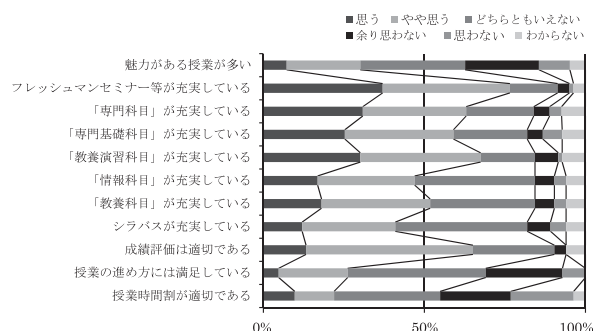


図31-1. 平成19年度 看護学科における教育評価

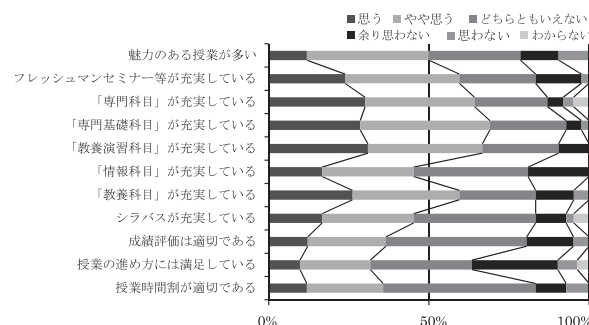


図31-2. 平成22年度 看護学科における教育評価

表6. 看護学科における教育評価について4期生の記載内容

- ・先生たちの意見を統一してほしい。
- ・同じ科目でも先生によって評価が違う。統一してほしい。
- ・自分たちのテストの点数、レポートの評価もわからないのに、成績をつけられて結果だけを教えられて不満がある。
- ・自由に時間割が選べない。
- ・先生によって教え方が違う。(基礎看護技術)
- ・フレッシュマンやふれあい、教養演習を短時間で適当にやるより、解剖学や生理学、病理学を時間をかけてやってほしい。

(2) 学習支援についての評価

学習支援についての学生の評価では、「授業・講義以外で教員とのコミュニケーションが十分とれている」が1期生56.6%、4期生では33.3%と減少した。(図32-1. 図32-2. 表7. 参照)

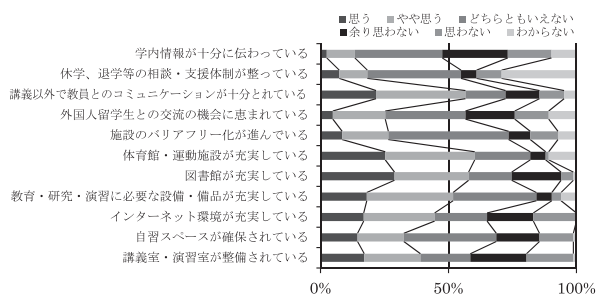


図32-1. 平成19年度 学習支援についての評価

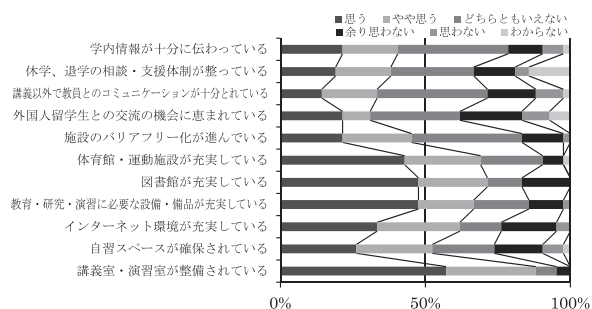


図32-2. 平成22年度 学習支援についての評価

表7. 学習支援について4期生の記載内容

- ・自習スペースをもう少し増やして欲しい。
- ・看護棟の図書館の席など少なくて座れないことが多い。
- ・パソコンは使えるが、インターネットの情報を印刷したりできないので、印刷できるようにしてほしい。
- ・看護の図書館の席をもっと増やしてほしい。
- ・もっと本の数を増やしてほしい。
- ・ラウンジが空いていなかったり、講義室も空いていないと、本棟の図書館まで行かないといけないので不便。
- ・トイレはもっと有効に使うべき。

(3) 生活支援についての評価

生活支援についての評価では、自由記載に学生食堂に対して改善の希望が多かった。(図33-1. 図33-2. 表8. 参照)

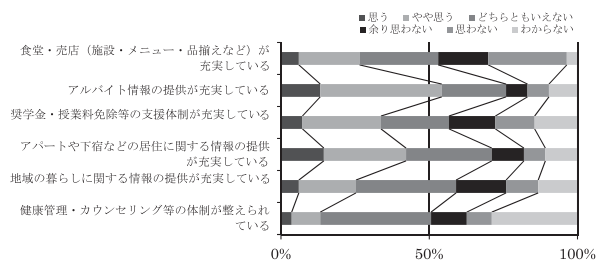


図33-1. 平成19年度 生活支援についての評価

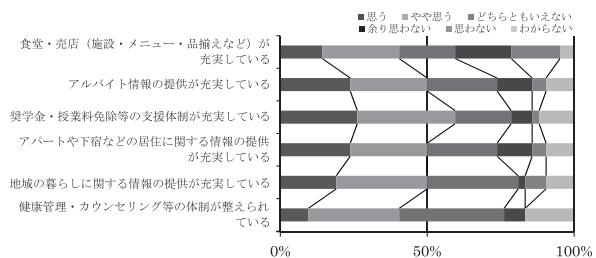


図33-2. 平成22年度 生活支援についての評価

表8. 生活支援について4期生の記載内容

- ・売店にクリアポケットファイルが売られていない。
- ・(食堂のメニューは)品が同じで飽きてしまう。
- ・(食堂)メニューが少ないし、数も少ない。
- ・食堂の料金が安い。

(4) 進路支援についての評価

進路支援についての評価では、全項目で1期生より4期生のほうが良かった。(図34-1. 図34-2. 参照)

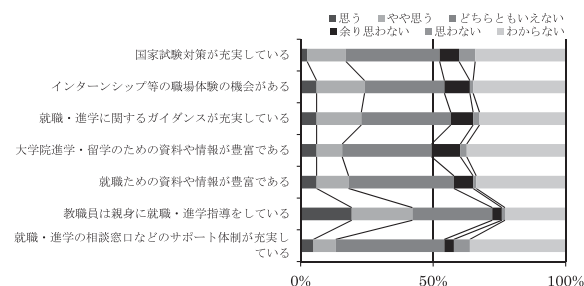


図34-1. 平成19年度 進路支援についての評価

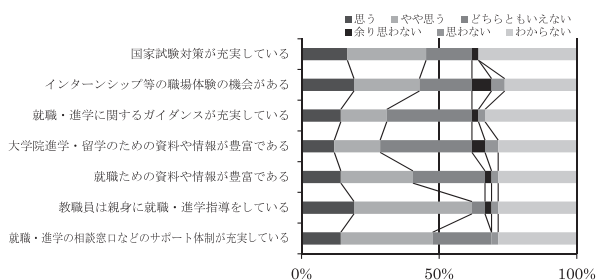


図34-2. 平成22年度 進路支援についての評価

(5) 教職員の相談体制についての評価

教職員の相談体制についての評価では、全項目で、1期生より4期生のほうが良かった。(図35-1. 図35-2. 参照)

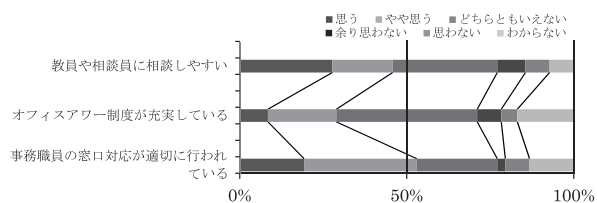


図35-1. 平成19年度 教職員の相談体制についての評価

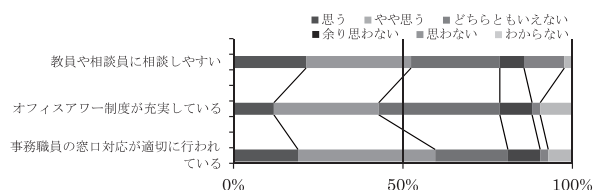


図35-2. 平成22年度 教職員の相談体制についての評価

(6) その他の評価

その他の評価では、全項目で1期生より4期生のほうが良かった。(図36-1. 図36-2. 表9. 参照)

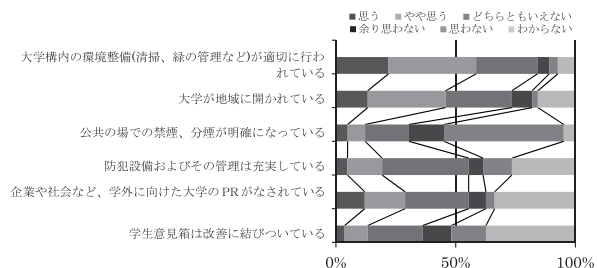


図36-1. 平成19年度 その他の評価

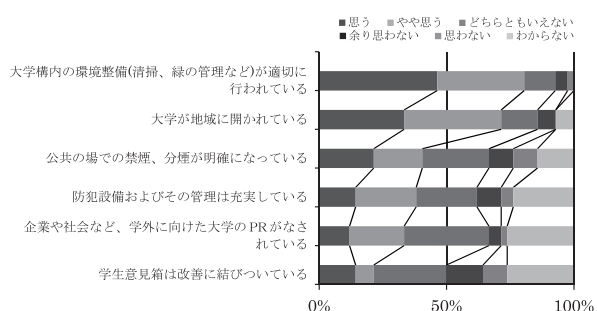


図36-2. 平成22年度 その他の評価

表9. その他について4期生の記載内容

- ・学生意見箱の存在を初めて知った。
- ・トイレがきれい使いやすい。
- ・学食のトイレが汚い。

7) 進路および国家試験対策について

(1) 進路について

進路希望は、看護師が1期生66%、4期生78.6%と最も多かった。保健師は、1期生16.9%、4期生2.4%であった。教員希望は1期生4.8%、4期生では0%であった。進学は、1期生0%、4期生では2.4%が希望していた。(図37. 参照)

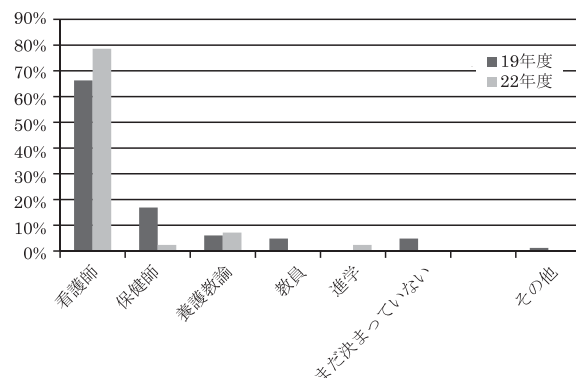


図37. 進路希望

(2) 進路に関する不安や悩みについて

進路に関する不安や悩みでは、「自分は看護職に向いているのかわからない」が、1期生64.6%、4期生、61.9%で最も多かった。「社会出ることの不安」は、1期生29.3%、4期生47.6%であった。「就職活動・進学に関する情報の集め方がわからない」は、1期生22%、4期生9.5%に減少していた。(図38. 参照)

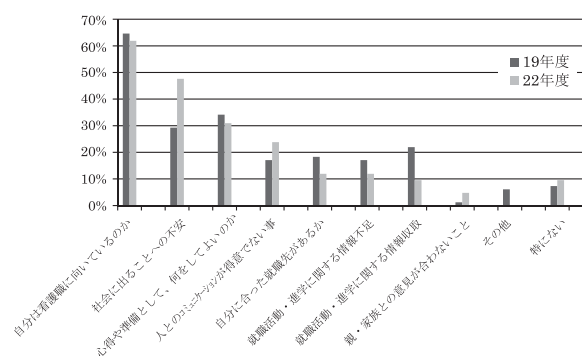


図38. 進路についての不安や悩み(複数回答)

(3) 国家試験対策の準備について

国家試験対策の準備は、何もしていないが1期生78.3%、4期生72.5%で最も多かった。模擬試験を活用している学生は1期生1.2%、4期生7.5%であった。(図39. 参照)

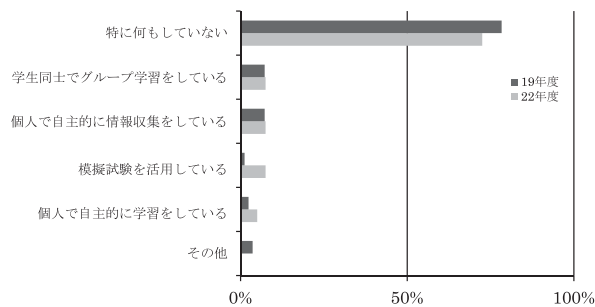


図39. 国家試験準備状況

(4) 国家試験対策希望について

国家試験対策の希望について「はい」と回答した学生は1期生96%、4期生82.9%であった。「いいえ」と回答した学生は1期生3.8%、4期生17.1%であった。自由記載においても国家試験対策の希望があり、いつから、どのように行ってほしいのか記載されていた。(図40. 表10. 参照)

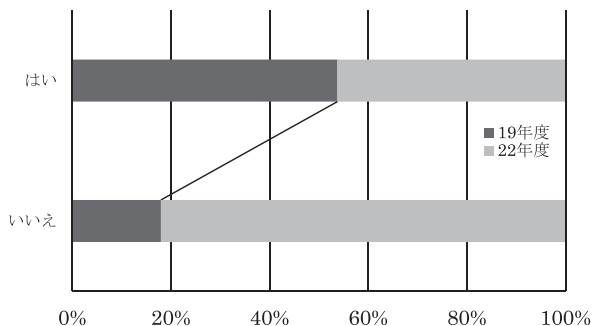


図40. 国家試験希望対策状況

表10. 国家試験対策への具体的な要望について4期生の記載内容

<ul style="list-style-type: none"> ・対策講座 ・定期的に問題を配布して、それを解いていく。 ・月に1回、決まった曜日に行ってほしい(例、毎月第二月曜日とか)。不定期に行くと、パイトの休みが取りにくい。 ・解説等の講座 ・2年～3年のときから1コマ授業として、入れてくれるといい。 ・過去問で勉強したり、教員の指導を受ける。 ・過去問対策を詳しくしてほしい。 ・模試とかを早めに始めてほしい。 ・過去問配布など。
--

8) 入学について

(1) 名桜大学人間健康学部看護学科に入学した理由について

入学理由は、「とりたい資格・免許が習得できる」が1期生78.3%、4期生64.3%で最も多かった。「授業料が他の看護系私立大学より安い」が1期生3.6%、4期生54.8%であった。「自宅から通える」

が1期生15.7%、4期生28.6%であった。「施設・設備がよい・充実している」が1期生1.2%、4期生16.7%であった。「親のすすめ」は1期生6%、4期生16.7%であった。(図41. 参照)

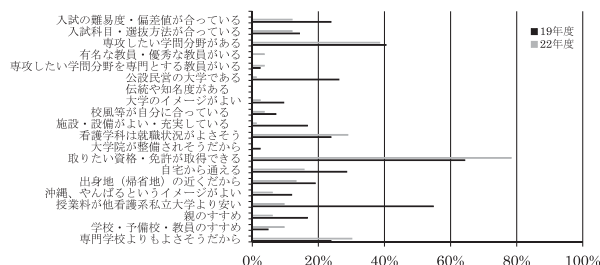


図41. 入学した理由(複数回答)

(2) 入学希望について

入学について、「希望通りであった」と「ほぼ希望通りであった」を合わせると、1期生70.3%、4期生78.6%の学生が希望通り入学してきていた。(図42. 参照)

入学後の名桜大学のイメージでは、「とてもよい」と「ややよい」を合わせると、1期生24.1%、4期生56.1%とよいイメージを持っていた。(図43. 表11. 参照) その理由として、4期生では、施設や設備の充実、学びに対して積極的に学生間の協調性があること、授業内容の満足感、学生の質の良さをあげていた。一方、「やや悪い」「とても悪い」と感じている学生は1期生37.3%、4期生14.6%であった。その理由として、4期生では、自由な時間が思った

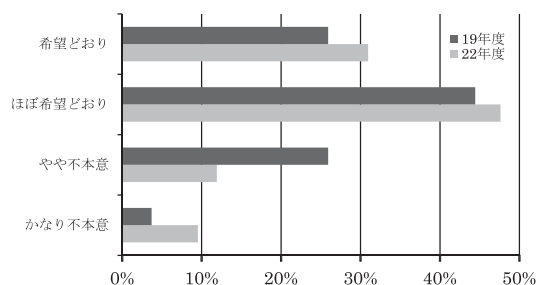


図42. 入学希望

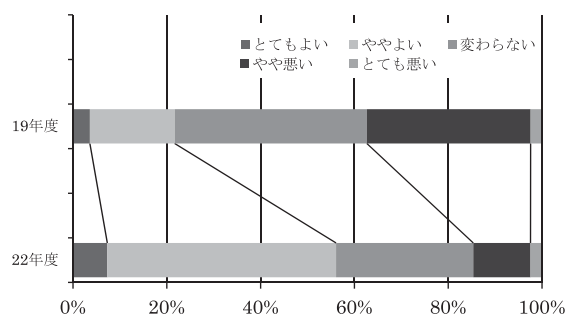


図43. 名桜大学に対する入学前と比較した入学後のイメージ

ほど持てないことや教員との交流が少ないこと、勉強が難しくて、ついていけないなどであった。(図44. 参照)

表11. 入学前と比べてよかったと回答した4期生の記載内容

- ・設備が充実している。
- ・施設が上等
- ・名護に行くのは嫌だったけど、一人暮らしをすることで、親の有難さを実感し、幅広い友人が増えた。今では、名桜大学に来てよかったと思う。
- ・たのしい。
- ・学びに対して積極的で、みんな協調性にあふれている。
- ・看護職を目指してよかったと思える授業内容であった。
- ・学生の質が良い。

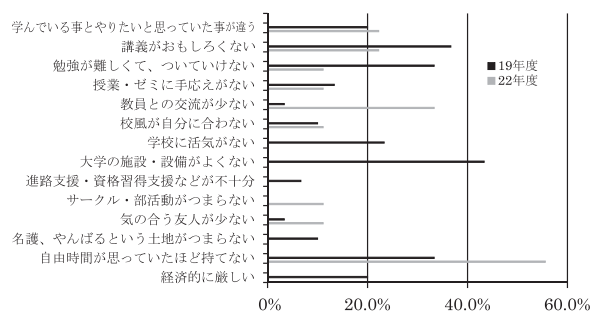


図44. 入学後悪いイメージだった理由 (複数回答)

9) 教育理念の理解

(1) 大学の教育理念について

大学の理念を知っていた学生は、1期生45.8%、4期生57.1%であった。(図45. 参照)

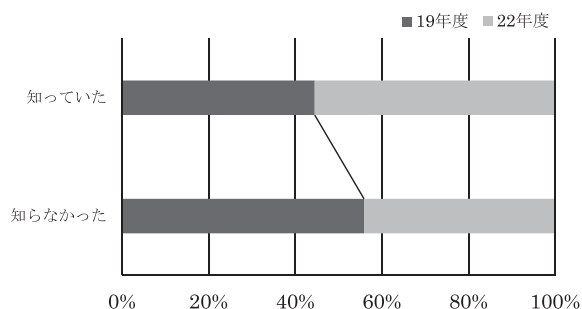


図45. 大学の教育理念の認知

(2) 看護学科の教育理念について

看護学科の理念を知っていた学生は、1期生71.1%、4期生では64.3%であった。(図46. 参照)

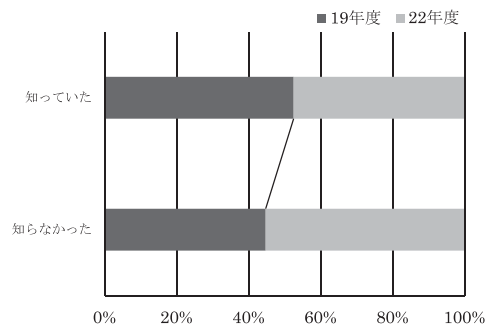


図46. 看護学科の教育理念

(3) 教育・各種支援について

教育・各種支援の自由記載は表12のとおりである。

(表12. 参照)

表12. 教育・各支援について4期生の記載内容

- ・先生方の評価を等一してほしい
- ・昼休みを長くしてほしい。
- ・もうちょっと、勉強に力を入れたほうが良いと思った。
- ・8:45からではなく、今までどおり9:00からにしてください。

4. 考察

1) 経済状況について

学生の経済状況について1期生と4期生を比較した。4期生では、仕送りを受けている学生やアルバイトをする学生が減少し、奨学金を受ける学生が増加している。仕送りの額は1期生に比べ増加しているが、アルバイト収入や奨学金の額は減少している。また、アルバイトの主な目的が、1期生は生活費であったが、4期生は、仕事の経験や社会勉強であった。アルバイトの目的が、生活そのものから社会勉強へと変化してきている。

以上のことから、4期生は1期生に比べ、経済的に安定した状態で学生生活を送っている者が多いと考えられる。これは、平成22年度より名桜大学が、私立大学から公立大学へ移行し、授業料が年間120万円から54万円に減額されたことが影響していると考えられる。また、1期生は、本学科が新設校であったため入試時期がかなり遅れた。そのため、センター試験を受けた学生はおらず、本学の入学試験のみで入学してきている。しかし、4期生は、センター試験を受けて入学してくる学生もおおり、経済的なことも含め、学習の準備状況を整えて入学してきていることが考えられる。1期生は入学後も学習環境より生活を整えるために経済的な負担を抱えていたのに対し、4期生は経済的に安

定し、学習環境を整えることができる状況になってきたことが伺える。

一方で、学生自身の経済的余裕の評価の中で、全くない・あまりないと回答した学生は36.8%であった。その理由として、学費を自分で支払っている、高校時代の奨学金の返済、親からの仕送りが無いなどであった。さらに、経済的な支援のニーズでは、名桜大学の奨学金の拡充、授業料減免の制度の拡充が求められており、経済的な問題を抱える学生へのサポートは必要で、教材費・看護師国家試験対策費等できるだけ負担をかけないような工夫や配慮が求められる。今後もさらに学生が学習に専念できる環境作りを考える必要がある。

2) 生活状況について

対人交流および他者との関係における自己認識について、友人の数が多い・やや多い、人付き合いがよい・ややよい、親や家族との会話がよくある・まあある、リーダー役割の経験が多い・やや多い、他者との協力ができる・ややできる、人前で話すことは得意・やや得意と回答した学生は、1期生より4期生のほうが多かった。一方、相談相手がいると回答した学生は4期生より1期生のほうが多かった。しかし、4期生の8割以上の学生は相談相手がいなかった。以上のことから4期生は、家族関係は親密で、友人との関係を保ちながら、積極的に物事に取り組んでいる様子が伺える。

クラブやサークル活動へは、1期生、4期生とも80%が参加していない状況で、参加しない理由については、勉強の大変さをあげていた。また授業のない日や休日の過ごし方では、1期生がアルバイトや身の回りのことをすると回答する学生が多いのに対し、4期生はテレビや雑誌を見てゆっくり過ごす、寝ると回答する学生が多かった。学習面の難しさを実感しながらも4期生は、比較的ゆとりを持って生活しているといえる。この背景には既述した経済的なゆとりがあることも大きく影響しているものと考えられる。

生活上の悩みごとでは、勉学上の悩みが1期生、4期生ともに最も多かった。次いで、1期生では学費の負担や生活の苦しさをあげていたが、4期生では就職・進学などの将来の進路や自分の性格や生き方をあげていた。勉学上の悩みに対しては、初年次教育としての教養演習やフレッシュマンセミナー等を通して、高校時代とは違う学習スタイルを理解し、学び方を学ばせていく必要がある。

また、1期生では、生活そのものや学費を捻出することに重きが置かれていたが、経済的な負担が徐々に減少してきている4期生においては、「どう生きていくのか」、「自分は看護職に向いているのか」など青年

期に特徴的な悩みがあがっていた。看護学科は他学科・学群の学生とは異なり、将来の職業選択や就職先もある程度限定されている専門的な実践的学問である。そのため、将来の職業選択の可能性が多すぎてどうしてよいかわからないといったことは起こらないが、逆に、自分がこの専門職志向の学科での学習についていけるのか、自分が看護職に向いているのだろうかと真剣に悩むことになり、揺れる自分自身を体験することになる。このような、青年期にあり専門職を志す時に生じる特有の揺らぎの中にある学生に、どう関わるのかということが、ゼミ担当教員や初年次教育にあたる教員にとっては課題となるものと考えられる。

3) 健康状態について

前回の調査で、1期生の平均睡眠時間は5.8時間であった。石川らの調査による(2003)沖縄県内の看護学生の平均睡眠時間6時間20分や、上江洲らの調査による(2003)沖縄県内の一般的大学生の睡眠時間6時間18分と比較し、1期生は短眠者が多かった。今回、4期生の調査でも平均睡眠時間が5.9時間と1期生の5.8時間と大差はなかった。したがって、前回の調査と同様に本学科の学生の睡眠時間は短い傾向にあるといえる。睡眠時間が短いことは、様々な学生生活に影響してくるため、睡眠時間の確保について考える機会を今後も作っていく必要がある。

食事について、1期生は、家族等や自分で作り、外食は少なかった。しかし、4期生は自分で作ることは少なく、外食や家族等に作ってもらうことが多かった。したがって、4期生は、誰かが作ってくれば食べるという状況にあることが伺える。また、朝食の摂取状況では、摂取するが1期生64.3%、4期生71.4%ではあるが、約3割の学生は朝食を摂取していない。食事で気をつけていることでは、野菜をとるようにしているや好き嫌いをなく食べる、たんぱく質を多くとるようにしているとあるが、4期生の食事摂取状況からみると、どのような食事内容なのかはわからない。バランスの良い食事は、生活をしていくうえでの基本となる部分である。今後さらに県外からの学生が増えることも考えられるため、学生食堂での食事が昼食だけではなく、3食の食事の提供や売店での弁当販売など、学生食堂や売店の充実が求められる。

アルコール飲酒については、1期生44.4%、4期生56.1%が飲酒しないと回答している。しかし、CAGAテストで、アルコール依存症の可能性のある学生は1期生17.4%、4期生11.6%であった。琉球新報によると2009年、沖縄県での未成年者飲酒補導は全国平均の5.2倍、5年連続ワーストであった。全国的にも沖縄県は、未成年の飲酒率は高いことが伺える。4期生は、

飲酒しない学生が半数以上であったが、飲酒による健康障害や事故、マナーなどを学生生活ガイダンス等でさらに注意喚起していく必要がある。今回の調査で4期生は、喫煙する学生はいなかった。しかし、喫煙による身体への影響については、関連授業や学生生活ガイダンス等で十分理解させ、自らの健康管理を行っていけるよう指導を続ける必要がある。また、人々の健康支援に関わる職業を選択している自覚を持たせることも重要である。

大学における健康診断の受診は、1期生85.2%、4期生95.2%であった。4期生においては4.8%の学生が受診していなかった。その理由は、知らなかったであるが、1年次の健康診断は、入学後間のないことから、口頭での伝達や掲示板での伝達を行っても十分ではなかった。5期生からは、入学時のガイダンス期間中に健康診断を実施することになったため、このような状況は解決されていくであろう。

4) 学習状況について

通学日数および授業への出席率は1期生、4期生とも高値であった。通常の学習時間は、1期生より4期生のほうが確保されているが、試験期間中の学習時間では4期生より1期生のほうが確保されていた。4期生は、試験前に集中的に学習するのではなく、日頃から学習時間を確保している様子が伺えた。一方で、0または30分未満の学生は21.4%で、日頃の学習時間が確保されていない学生もいることから、学習への取り組みが両極化している傾向が示唆された。

学習環境として、インターネット機能のあるパソコンの所有率は4期生のほうが高かった。このような状況の中、学習時間および学習環境への満足度については満足・やや満足と回答した者が、1期生62.9%、4期生73.8%であった。一方、不満・やや不満と回答した主な理由は、1期生では学習についていけない、学習時間の確保が出ない、学習環境が整っていないであったが、4期生では、学習時間不足であった。1年次には比較的時間割についても空きコマも多く余裕があると思われるが、なぜ、時間不足となるのかなど、時間不足となる原因を整理し、どのようにタイムマネジメントを効果的に行い、学習成果をあげていくと良いのか学生とともに考える必要がある。

5) 大学の教育・学習支援について

教育についての学生の評価で、思う・やや思うが、減少した項目は「成績評価が適切である」(1期生76.5%、4期生59.5%)と「フレッシュマンセミナー、ふれあい看護実習が充実している」(1期生65.1%、4期生36.6%)であった。自由記載では、「先生たちの

意見を統一してほしい」、「同じ科目でも先生によって評価が違う」、「統一してほしい」、「自分のテストの点数、レポートの評価もわからないのに、成績をつけられた結果だけを教えられるのは不満がある」などの指摘があった。

学生は、同じ内容のことを言っても表現が変わると違うことを言っていると理解してしまうことがある。考え方や実施方法は、状況に応じて工夫が必要であり、答えが一つではないこともあるが、複数教員で授業を展開する場合は、事前調整を十分に行之、学生が混乱しないよう指導方法を再度検討する必要がある。

フレッシュマンセミナーでは、プロジェクト学習を取り入れたこと、ふれあい看護実習では、医療施設実習ではなく地域に赴き、地域の健康問題を取り上げるなど授業の展開方法が大きく変わった。また、この科目は、学生自ら、実施計画を立て、時間調整をして、地域に出かけていき、その結果を発表する。発表までの期間が、フレッシュマンセミナーでは約40日、ふれあい看護実習では約6カ月の時間を要した。学生は、高校まで与えられた課題を、指示された方法で、時間的管理の中で取り組んできた。また、受験勉強を通して、個人として効率的な学習方法やタイムマネジメントはできていたと考えられる。しかし、この科目はゼミという4～6名のメンバーで活動し、自ら主体的に取り組む科目であるため、ゼミメンバーの調整やタイムマネジメントなどに困難さを感じていたことは想像がつく。学生が、大学生としての学び方を獲得していく過程において、教員がどのように関わり、学生の学びを支援していくかが課題といえる。

学習支援についての学生の評価では、「授業・講義以外で教員とのコミュニケーションが十分とれている」が1期生56.6%、4期生33.3%と減少したが、他の項目については、4期生では良い評価を得ていた。しかし、自由記載には、自習スペースをもう少し増やして欲しい・看護学科棟の図書室の席など少なくとも座れないことが多い・パソコンは使えるが、インターネットの情報を印刷したりできないので、印刷できるようにしてほしい・もっと本の数を増やしてほしい・ラウンジが空いていなかったり、講義室も空いていないと、本部棟の図書館まで行かないといけないので不便等の指摘があった。講義室のPC使用の増加を可能にするため電力調整やラウンジでの学習が効果的に行えるよう空調管理を強化し、学習環境の改善を図っているが、PCルームの充実や専門書の確保など学習環境の再点検が必要となるものと考えられる。

生活支援についての評価では、全項目において4期生の評価は良かった。しかし、自由記載には、売店にクリアポケットファイルが売られていない・(食堂の

メニューは)品が同じで飽きてしまう・(食堂の)メニューが少ないし、数も少ない・食堂の料金が安いという指摘があった。学生食堂の改善希望は1期生から続いている状況である。また、3)健康状態についてでも述べたが、学生生活をサポートする意味でも、全学的に早急に検討すべき課題である。

進路支援体制の評価では、全項目において4期生の評価は良かった。進路支援体制は、1期生からの積み重ねがあり、年々整えられてきている。しかし、就職・進学に関するガイダンスが充実している・大学院進学・留学のための資料や情報が豊富であるの項目では、思う・やや思うを合わせて30%に達していなかった。1年次ではあるが、多くの可能性を持っている学生たちなので、就職や大学院進学などガイダンス等を利用して学年にあった情報提供をしていく必要がある。

教職員の相談体制の評価では、全項目において4期生の評価は良かった。1期生の調査では、オフィスアワーについて「わからない」「どちらとも言えない」と回答した学生が60%を占めていた。4期生では45%であるが、今後ともオフィスアワーの意味を十分説明する必要がある。

その他の評価では、学生意見箱の項目で、思う・やや思うを合わせて30%に達しなかった。自由記載の中にも学生意見箱の存在を初めて知ったという記載があった。学生意見箱に限らず、学生生活のサポートシステムの種類や利用方法など機会があるごとに伝えていく必要がある。

6) 進路および国家試験対策について

4期生の現時点での進路希望は、看護師・78.6%・保健師2.4%・養護教諭7.1%・進学2.4%であった。まだ決まっていないと回答した学生が1期生では4.8%いたが、4期生では0%であった。何らかの形で、自分の進路を決めていることが分かった。しかし、自分は看護職に向いているのかがわからないこと、社会に出ることへの不安を抱えている。学年が進むにつれ、学習内容はより専門的になってくるため、本当にこのまま看護の学習を進めていってよいのか、自分は看護師に向いているのかという葛藤や揺らぎの中に多くの学生がいることが考えられる。こうした、不安定さの中にも青年期の特徴であり、学生にとって発達課題への挑戦でもある。ここでも、青年期の発達課題への教員の関わり方が課題となる。

国家試験対策の準備については、特に何もしていないが1期生78.3%、4期生72.5%で同様な結果であった。国家試験対策の希望については、1期生96%、4期生82.9%であった。1期生の場合先輩がいないため、国家試験対策がどのようになされるのか不安が大きかつ

たであろう。しかし、4期生の場合は先輩たちからの情報等を得ているため、このような結果につながったのではないだろうか。自由記載では、対策講座・定期的に問題を配布して、それを解いていく・模試とかを早めに始めてほしいという希望があった。また、2年～3年のときから1コマ授業として、入れてくれるといいという記載があった。国家試験対策に関して、まだまだ先のこととして捉えている様子が伺える。1年次であるため予想されることではあったが、意識付けは早期から行っていく必要がある。

しかし、名桜大学が、私立大学から公立大学へと移行し、入学してくる学生の状況にも変化が考えられるため、教養教育との関連の中で、どの時期から国家試験対策を始めればよいかは今後検討していく必要がある。

7) 入学について

入学した理由は、「とりたい資格・免許が習得できる」が1期生78.3%、4期生64.3%で最も多かった。「授業料が他の看護系私立大学より安い」が1期生3.6%、4期生54.8%であった。看護学科という特徴から、目的意識を持って入学してきているといえる。また、私立大学から公立大学に移行したことで、経済的負担が軽減されたことも入学理由としてあげられる。「大学のイメージがよい」と回答したものは1期生2.4%、4期生9.5%であった。さらに「伝統や知名度がある」と回答した学生は1期生、4期生とも0%であった。イメージが良いと回答した学生はやや増えてきているが、伝統や知名度について変化はない。引き続き大学のPRに努めていく必要がある。

名桜大学への入学が、希望通りであった・やや希望通りであったと回答している学生は、1期生70.3%、4期生78.6%であった。この結果は1期生と同様に4期生の大半が希望通りの入学であったといえる。

入学後のイメージでは、良い・やや良いと回答した学生は、1期生24.1%、4期生56.1%であった。その理由として4期生は、施設や設備の充実、学びに対して積極的に学生間の協調性があること、授業内容の満足感、学生の質の良さをあげ、充実した学生生活を送っていることが伺える。一方で、やや悪い・悪いと感じている学生は1期生37.3%、4期生14.6%であった。悪いイメージは減少傾向にあるが、その理由として自由時間が持てないこと、勉強が難しくついていけないなどがあげられていた。大学での授業内容の難しさや看護学という専門性の高い学習内容に苦慮しているといえる。また、教員とも交流が少ないことをあげている学生もあり、さまざまな場面で教員のサポートが必要とされている。

8) 教育理念の理解

大学の理念があることを知っていた学生は、1期生45.8%であったが、4期生では57.1%に増えていた。看護学科の理念を知っていた学生は、1期生71.1%であったが、4期生では64.3%であった。4期生では、大学の理念や看護学科の理念を知っている学生は約6割であることから、今後もさらに教育理念が学生に理解できるような工夫が必要となる。

5. 結論

- 1) 名桜大学が私立大学から公立大学に移行したことにより、学生の大半は経済的負担が大きく減少した。しかし、まだ経済的負担感が解消したわけではないので、奨学金や教材費の負担軽減等の経済的サポートは今後も継続して実施していく必要がある。
- 2) 経済的負担が軽減し、比較的余裕を持って学生生活を送っている。一方で、青年期特有の悩みを抱えるようになった。学生が、自分自身を確立しようとする、この揺らぎの時期にどう関わるのかということが、私たちにとって課題である。
- 3) フレッシュマンセミナーやふれあい看護実習を通して、学生たちは高校時代の学習スタイルから大学生としての学び方を獲得していく。この過程で、学生たちは、今までに経験したことのない感情を抱き、戸惑いや思いもよらぬ壁にぶつかり、そこに立ち向かうことで、自ら成長していく姿がある。この初年次教育に教員としてどう関わっていくかということを考えていく必要がある。
- 4) 学生たちは勉学上の悩みを抱え、学習時間の確保の必要性を実感している。基礎学力の低い学生や学習習慣が身につけていない学生に対しては、学生個々の特徴や状況を踏まえたサポートが必要となる。
- 5) 食堂や売店に対する改善要求が多い。学生の健康や生活サポートを考えたとき、学生が何を求めているのか、学生の声に耳を傾け、早急に対応する必要がある。

終わりに

今回、学生生活調査を実施し、経済的に安定した状態で生活している学生たちが増えてきていること、勉学上の悩みや青年期特有の悩みを抱えながら学生生活を送っていること、仲間関係が良好であること、大学の教育・学習支援についての評価は概ね良い結果であることが分

かった。

一方で、学生をサポートしていくうえでの課題も明らかになった。これらの課題については、関連機関と連携を取りながら、解決に向けて努力していきたい。

引用文献

1. 平成19年度 名桜大学人間健康学部看護学科 年次報告書 p64-83, 2008.
2. 金城やす子ほか「看護学科生の大学生活における満足度に影響する要因の検討ー学生生活調査の結果からー」, 名桜大学紀要第14号 p271-281, 2008.
3. 石川りみ子他「看護学生の睡眠健康と食習慣に関する研究, 沖縄県立看護大学紀要第4号 p15-26, 2003.
4. 上江洲栄子他「沖縄県の大学生の睡眠健康と食習慣(1)ー2000年の調査結果の全体像ー」, 琉球大学教育学部紀要(63) p263-273, 2003.
5. 未成年の飲酒補導、全国の5.2倍 5年連続ワースト <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-159305-storytopic-1.html> (2011.10.13)
6. 服部祥子「生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために」, p109-125, 医学書院, 2010.